

所属・資格 総合文化研究室・教授

申請者氏名 椎名 正博

研究課題		ジャック・リヴィエールと石川淳の小説論
報告の概要	研究目的 および 研究概要	1925年、文芸誌 NRF の編集長だったジャック・リヴィエールが早世した。そのとき、日本の福岡では政治運動に加担したとして、福岡高等学校からの退職を余儀なくされた石川淳は、帰京して東京の各所を点々とする「風來坊」の生活を始めようとしていた。しかし、石川は福岡で NRF を定期購読していたのである。これは石川自身が書いている事実だが、これまで彼が NRF で何を読んで何を考えていたか、については研究されていない。本研究では、従来の研究で抜け落ちていたリヴィエールの『冒険小説論』の論旨と石川淳の小説論を比較しながら、石川がそこから決定的な影響を受けたことを証明してみたい。
	研究の結果	個人研究費申請書提出後の昨年2月、国立劇場において石川淳原作のオペラ「紫苑物語」が世界初演された。これを見て衝撃を受け、研究の方向をいささか修正して、本オペラ作品に見る石川淳の小説論とジャック・リヴィエールの関係を探求することとした。その結果、小説『紫苑物語』の冒頭におかれた有名な一文、「国の守は狩を好んだ。」が同じ子音[k]で始まる音節を意図的に並べたものであることを発見した。この点を指摘した研究はこれまでにない。しかも石川本人は、「目覚めたとき、頭に浮かんだフランス語を和訳したものだ」という言い訳までしている。このような音韻に対するこだわりと、この小説のオペラ化は無縁ではあり得ない。そのこととジャック・リヴィエールの『冒険小説論』との関連についても今後さらに研究を進める所存である。
	研究の考察・反省	すでに述べたように、研究のはじめの段階で研究全体の方向性の修正を余儀なくされてしまったため、全体として進行が遅れたことが大きな反省点である。そのために、予定していた論文の執筆も完成を見ることができなくなってしまった。この論文は本年中には執筆、発表できるよう努力したい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 東アジア日本語教育・日本文化研究学会 石川淳『紫苑物語』のオペラ化について 2019年8月25日/九州看護福祉大学	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	上記の理由で来年度に発表の予定	